

資料

平成28年3月30日(水)
第3回「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議」

青森駅周辺のまちづくりについて

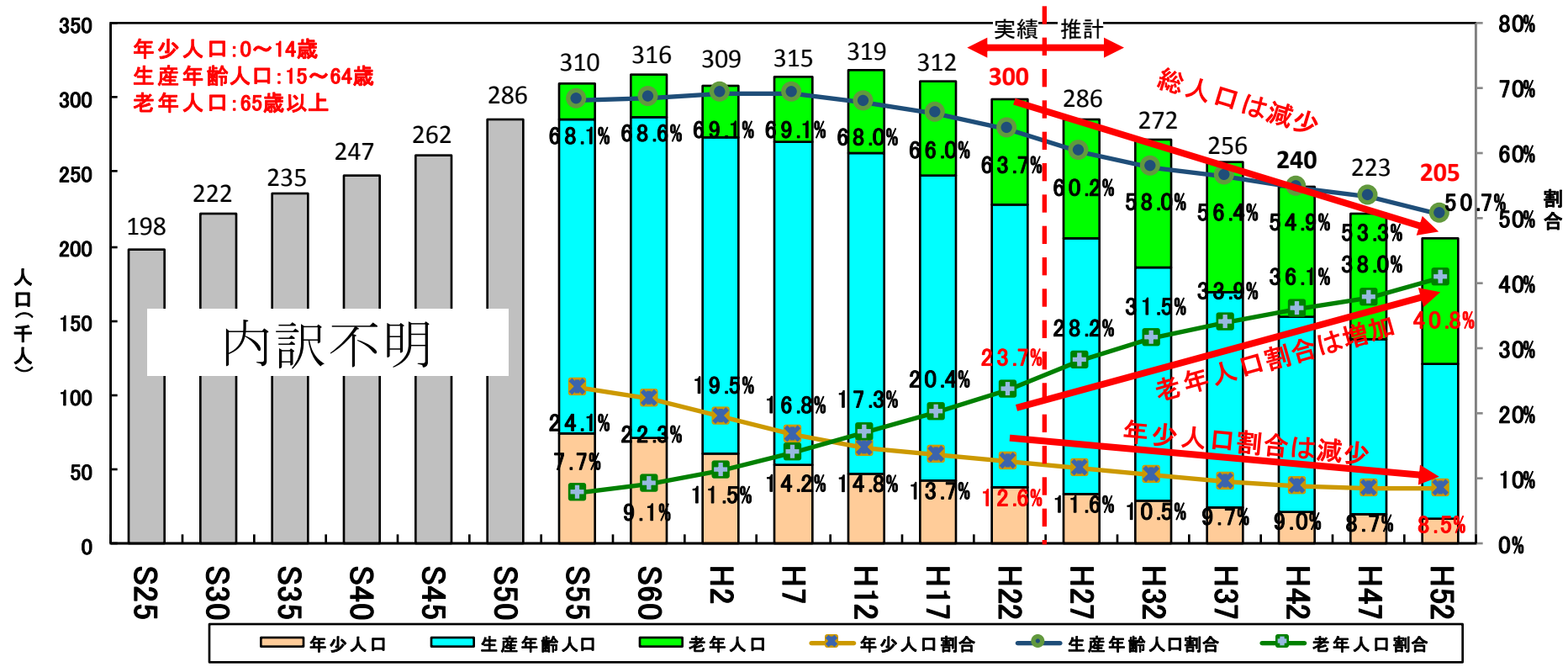


青森市のまちづくりについて

青森市の人口の推移

総人口・年齢3階層別人口の推移と将来推計

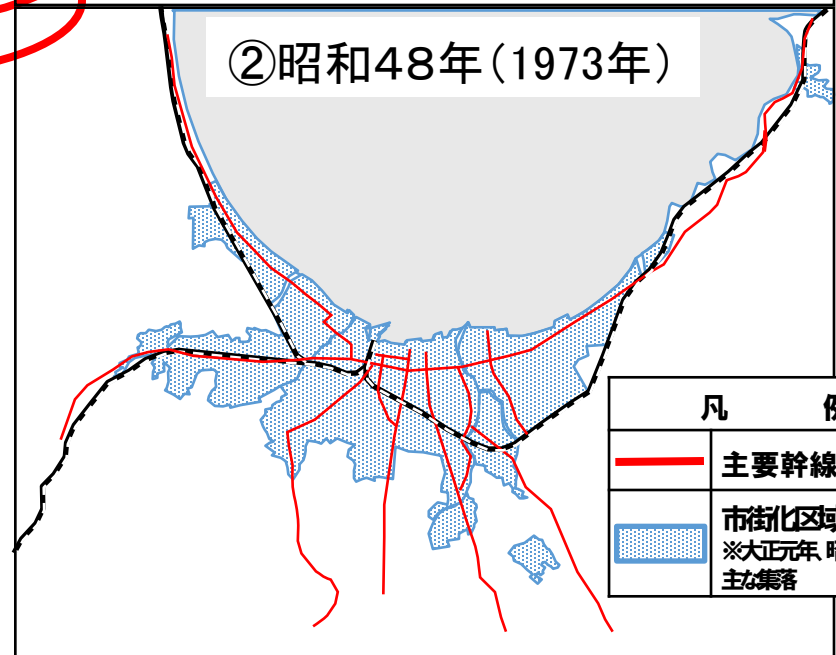
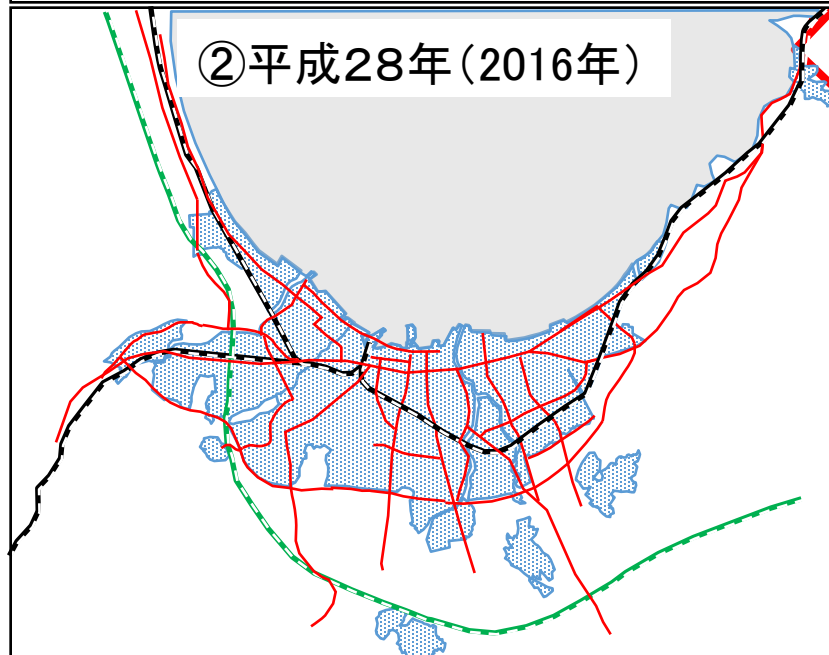
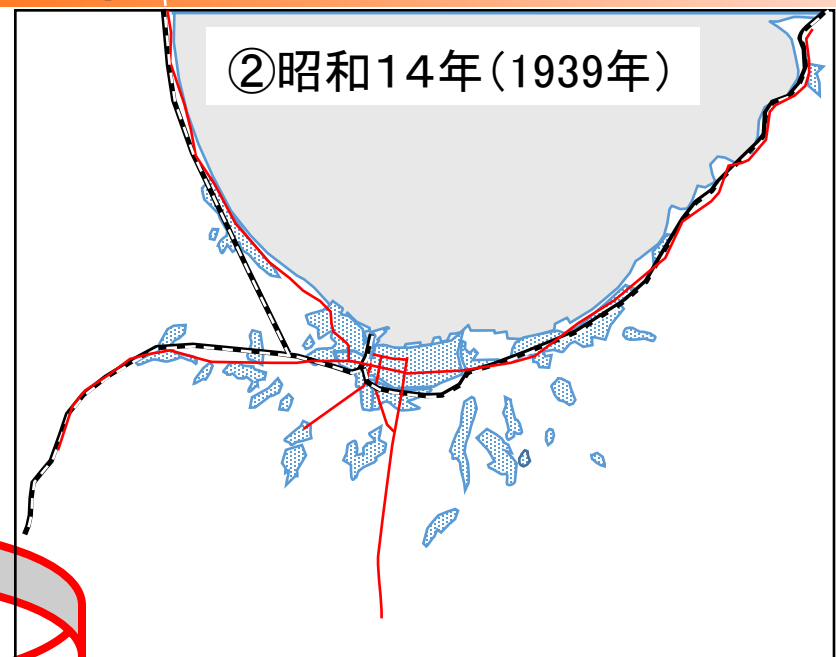
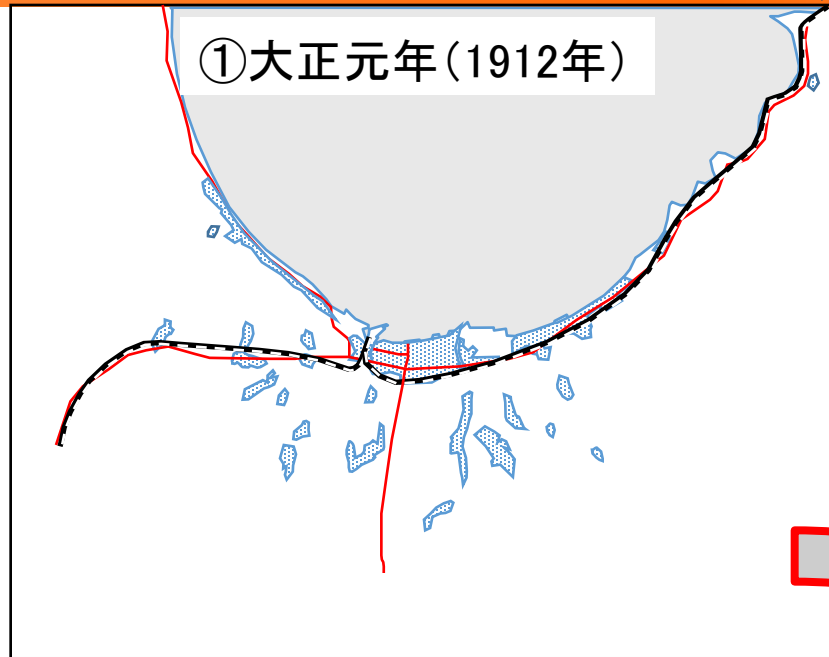
- 青森市の人口は平成12年をピークに減少に転じ、今後も減少傾向が続くと見込まれる。
(H22:約30万人→H52:約20.5万人)
- また、少子高齢化が更に進展すると見込まれる。
(年少人口割合 H22:12.6%→H52:8.5%、老年人口割合 H22:23.7%→H52:40.8%)





※S25～H12は旧青森市と旧浪岡町の合算

出典：平成22年以前は総務省「国勢調査」、平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所（平成25年3月推計）

青森市の市街地拡大の変遷(大正～現在)



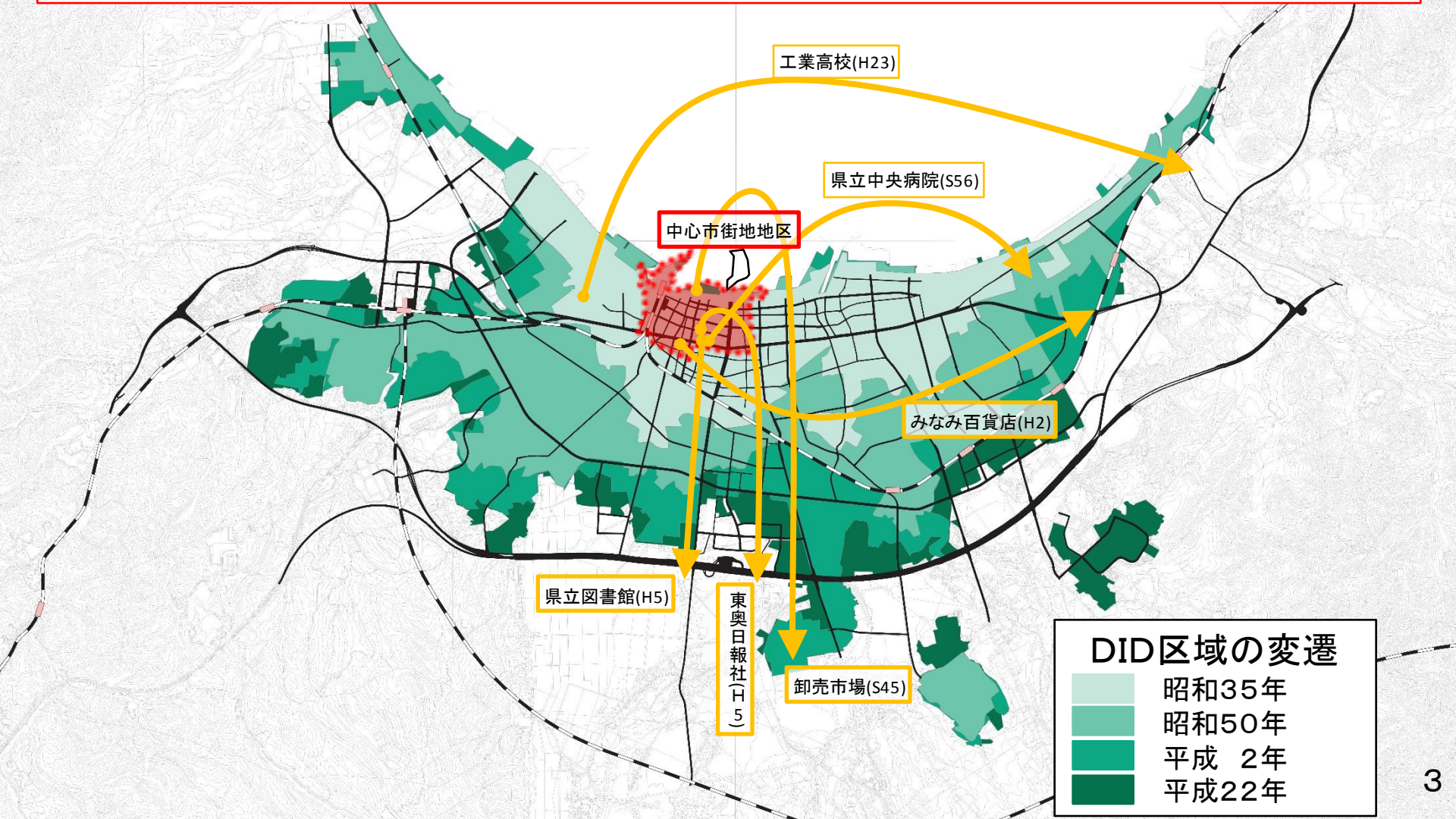
凡 例	
	主要幹線道路
	市街化区域 ※大正元年、昭和14年は 主な集落

中心市街地の空洞化

人口の増加により、市街地の拡大とモータリゼーションの進展



商業施設及び公共・公益施設の郊外移転等による都市の空洞化が急進



中心市街地活性化基本計画

◎第2期青森市中心市街地活性化基本計画

(平成24年4月～平成29年3月)

○目指すべき姿

「歩いて暮らすことのできる質の高い生活空間」

～ウォーカブルタウン(遊歩街)の確立～

○主な事業

・青森駅周辺整備推進事業

- ・中新町ウエスト地区優良建築物等整備事業
 - ・中新町センター地区優良建築物等整備事業
 - ・古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業
 - ・中心市街地歩道融雪施設等整備事業
 - ・港湾文化交流施設改修事業
 - ・戦略的中心市街地活性化事業
 - ・商店街空き店舗対策事業
 - ・中心市街地にぎわい創出事業
 - ・AOMORI春フェスティバル事業
 - ・青い森のハロウィン事業
- など、全46事業



中新町ウエスト地区優良
建築物等整備事業



中新町センター地区優良
建築物等整備事業

青森の歴史



北海道との
ヒト(人)の交流



北海道との
モノ(物)の交流



首都圏及び県内外の
交通・交流の拠点

本州と北海道を繋ぐ交通の要衝として発展



青森駅を中心とした
中心市街地の**にぎわい**

青森駅・鉄道は、青森市の発展を牽引してきた
地域の財産であり、都市の顔である。

青森駅周辺のこれから

昭和63年 3月 青函連絡船廃止
平成22年12月 東北新幹線全線開業
平成28年 3月 北海道新幹線「新青森・新函館北斗間」開業



3度の交通環境の変化



〔青森駅〕

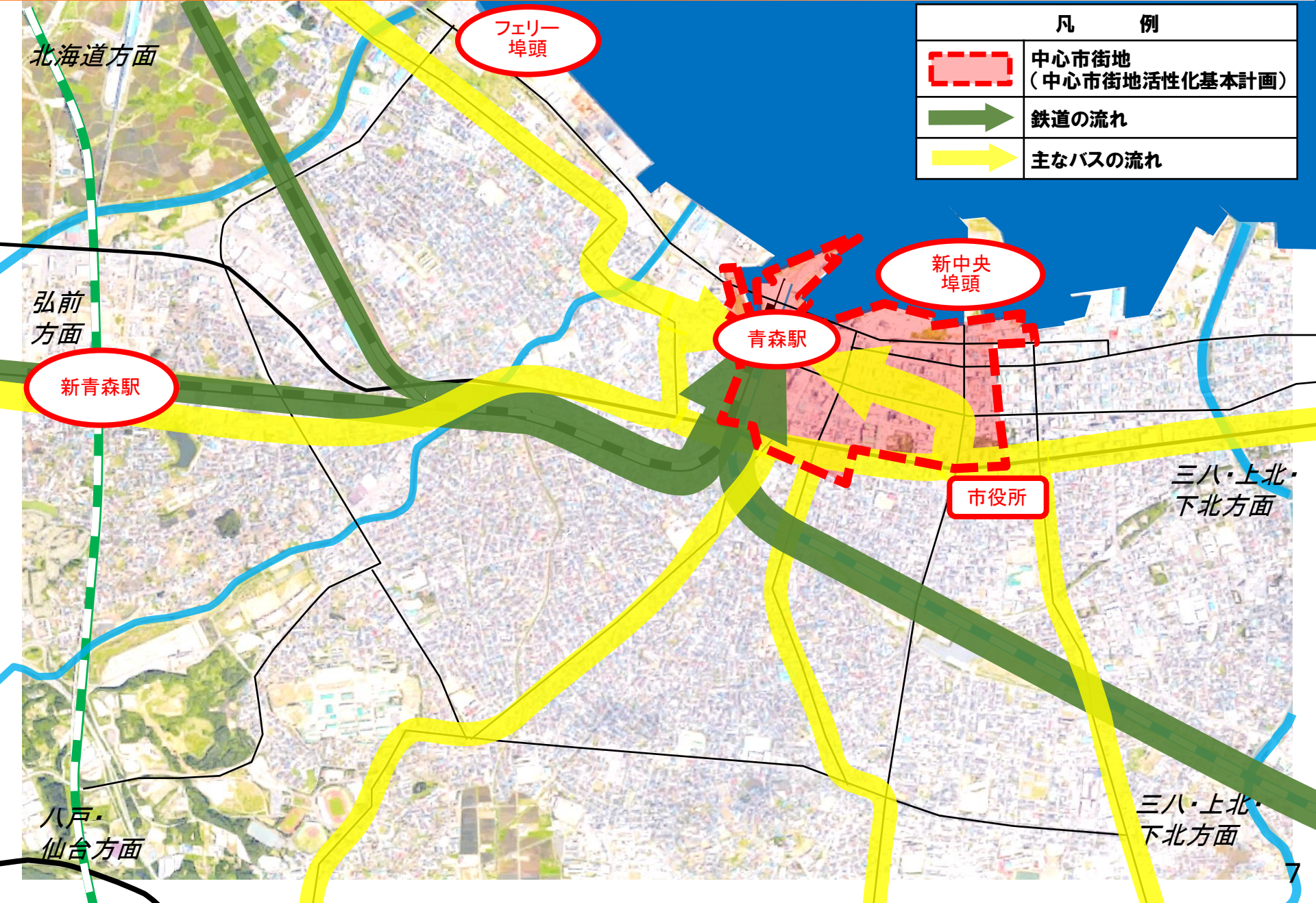
JR奥羽本線・津軽線、青い森鉄道線の1日120本を超える列車の発着

〔駅前広場〕

市営バス、民営バス、都市間バスなど、1日約850便のバスの発着

引き続き公共交通の中心

青森駅周辺と公共交通の関係



凡 例	
	中心市街地 (中心市街地活性化基本計画)
	鉄道の流れ
	主なバスの流れ

北海道方面

フェリー埠頭

弘前方面

新青森駅

青森駅

新中央埠頭

市役所

三八・上北・
下北方面

八戸・
仙台方面

三八・上北・
下北方面

青森駅周辺の位置付けと役割

海路
(フェリー・クルーズ船等)
による
ヒト・モノの流れ

青森駅

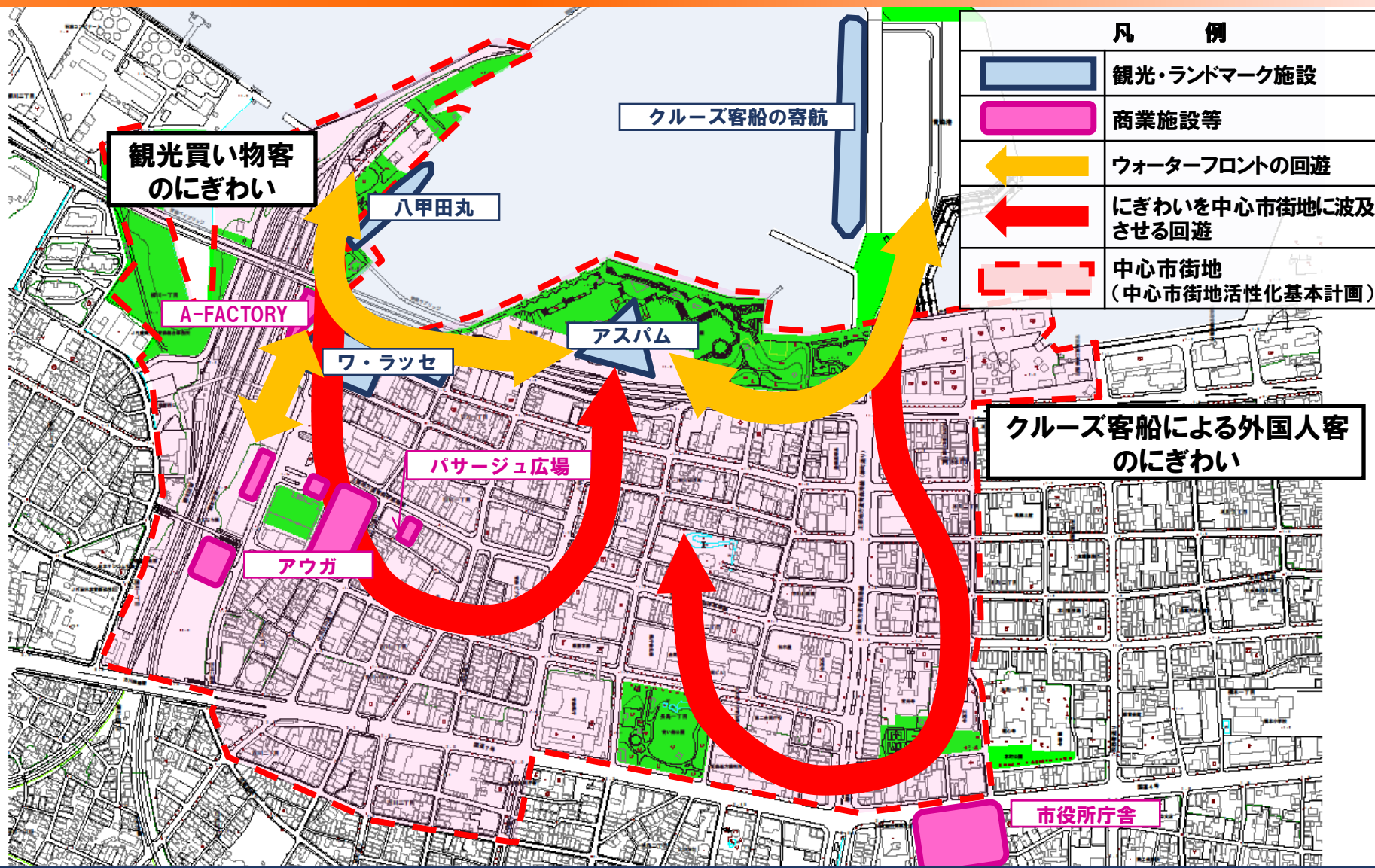
鉄路
(新幹線・在来線等)
による
ヒト・モノの流れ

市役所

空路による
ヒト・モノの流れ

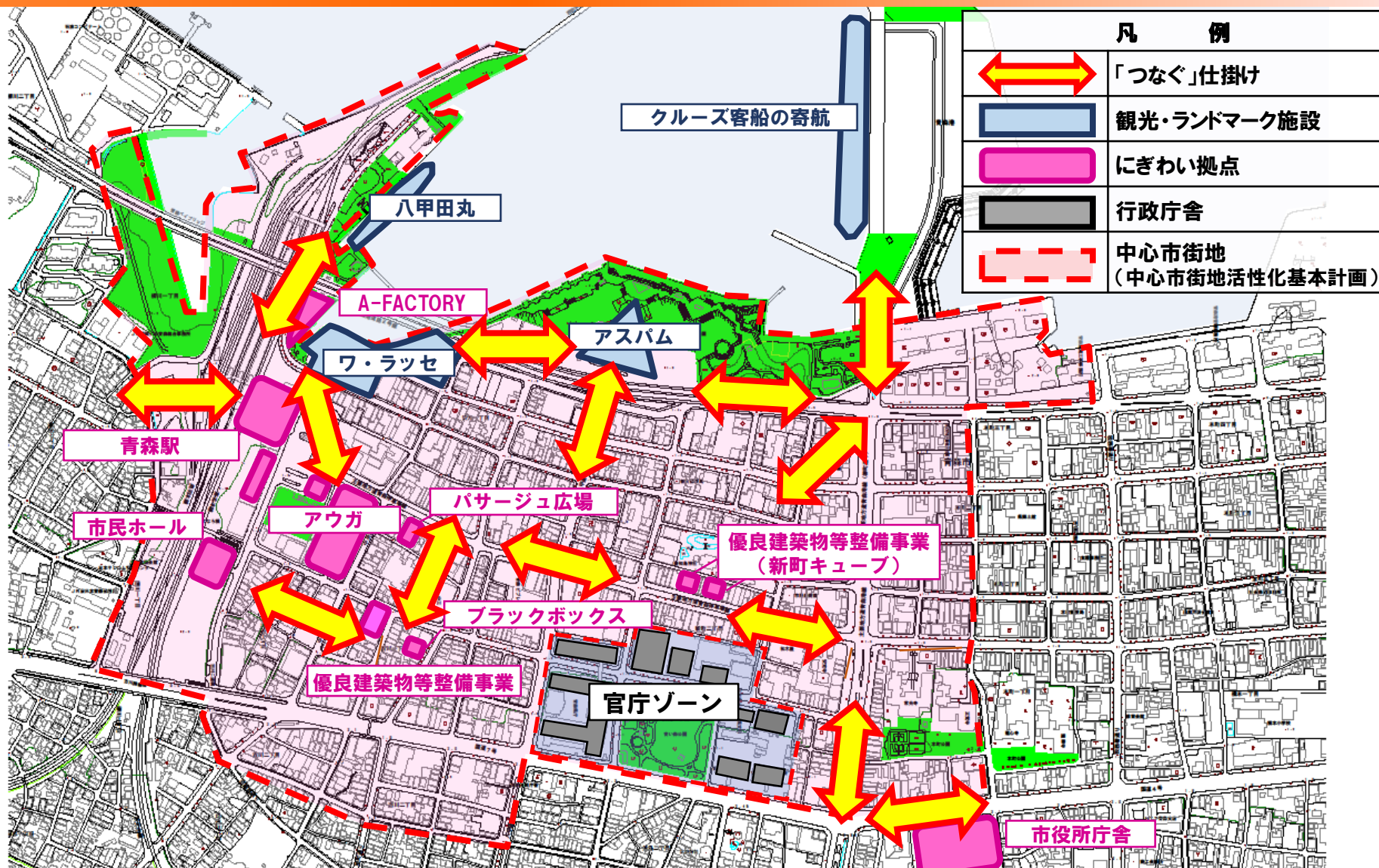
陸路
(自家用車・バス等)
による
ヒト・モノの流れ

「これまでの取り組み」 「まちなか」でのにぎわいづくり





**ウォーターフロント地区にとどまっている一時的なにぎわいを
中心市街地全体へ常に波及させる取組の強化が急務**

にぎわいづくりの種



にぎわい拠点と新たなにぎわいづくりの種を結ぶ仕掛け
中心市街地の進化

<さらなる今後の取組> 誰もが楽しく歩いて健康に暮らせるまちづくり

凡 例	
	観光・ランドマーク施設
	商業施設等
	整備により強化される回遊路線
	回遊ルートの新設・強化
	中心市街地 (中心市街地活性化基本計画)

地域の現状

- ・特に子育て世代の来街機会が少ない
- ・歩く習慣が少ない青森県民

1日当りの歩数全国ワースト4位
～平均寿命ワースト1位

交通利便性の高い駅前への都市機能の集約

- ・子ども・子育て支援機能
- ・市民活動支援拠点 等

東西自由通路と西口駅前広場の整備

- ・市街地の分断を解消
- ・駅・まち・海を結ぶ東西回遊軸の創出
- ・新青森駅方面等からのアクセス性向上

回遊ルートの創設・強化



子育て世代の新たな需要を掘り起こすとともに、少子高齢化社会の急進に向けた対応を強化し
中心市街地全体を子ども・子育て・健康づくりの舞台へ

青森駅周辺整備推進事業

青森駅周辺整備のこれまでの経緯

◎概算事業費が当初計画の約1.5倍(27.3月)

81.7億円⇒123.6億円

※速報値は27.2月発表

事業費縮減を相談

◎事業費縮減の相談に対してのJR東日本からの回答(27.6月)

- ・青森駅周辺のまちづくりは重要であると認識している。
- ・事業費縮減について、市が検討を行うのであれば、現在よりも一步踏み込んだ検討が必要ではないか。協力することは可能。
- ・検討を進めるのであれば、2020年度までに青森駅のバリアフリー関係の整備を行いたいと考えている。
- ・来年度当初に、自由通路整備等を行う上で必要となる基本協定の締結に向け、本年度内に関係者において、調整を図ってはどうか。

◎市の判断(27.7月)

- ・事業費縮減に向け、JR東日本に協力をお願いし、検討を進め、持続可能な財政運営と有利な財源確保に努めつつ、できるだけ早い時期(概ね本年度末)での判断を目指す。

事業費縮減等の検討へ

事業費縮減等の検討結果

事業費縮減等に関する勉強会(27.7月～28.1月)

市、JR東日本、青い森鉄道の事業者である青森県の3者において、自由通路・駅舎他の配置の再検討などを中心に、事業費縮減等の検討を行った。

平成26年8月試算 (平成24年当初計画)				平成27年3月試算				平成28年1月再試算			
交付金:都市再生整備計画事業(中活)				交付金:都市再生整備計画事業(中活)				交付金:街路関連事業(想定)			
(億円)				(億円)				(億円)			
概算事業費		81.7		概算事業費		123.6		概算事業費		97.3	
概算事業費内訳	交付金	36.5	事業費の45%	交付金	55.4	事業費の45%	交付金	53.0	事業費の55%		
	起債	40.5	市費の90%	起債	61.3	市費の90%	起債	39.7	市費の90%		
	単独	4.7	市費の10%	単独	6.9	市費の10%	単独	4.6	市費の10%		
	市費計	45.2		市費計	68.2	+23.0	市費計	44.3	△0.9		

約26.3億円の事業費縮減

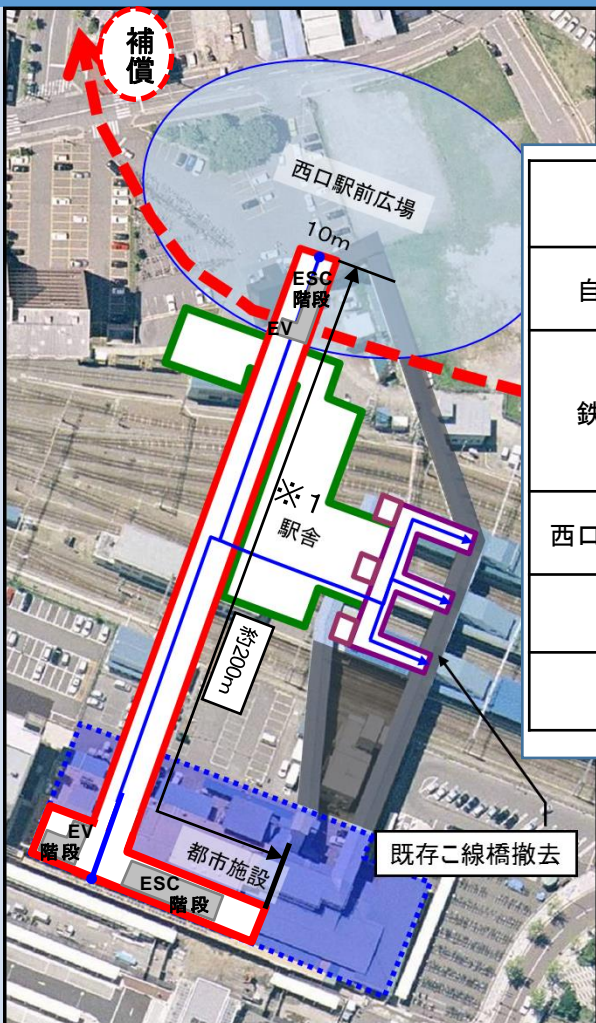
より有利な国交付金活用による市費の圧縮

※平成27年3月試算及び平成28年1月試算は、施工にかかる物価上昇分を含む。
 ※概算事業費は土地開発公社用地買戻し利息等を除き、全て交付金対象として試算。

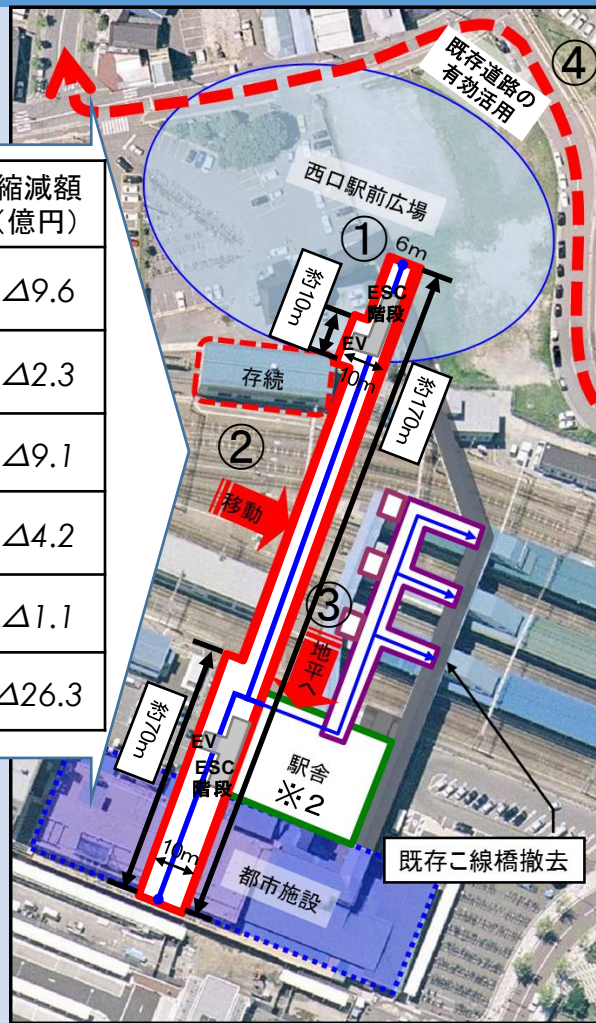
事業費縮減等の検討概要

平成27年3月試算
(平成24年当初計画)

平成28年1月再試算



区分	主な概算事業費縮減概要	縮減額(億円)
自由通路	① 幅員の削減等 (10m⇒6m)	△9.6
鉄道支障	② 自由通路位置の移動 (モーターカー庫存続)	△2.3
	③ 駅舎の半橋上化	△9.1
西口駅前広場	④ 既存道路の有効活用 (道路新設の見直し)	△4.2
自由通路の消費税等縮減分		△1.1
概算事業費縮減額合計		△26.3



※1 2階部分 出改札等駅事務室
みどりの窓口等販売諸室
その他駅業務諸室

自由通路面積 約2,600㎡
駅舎面積 約2,000㎡

※2 2階部分 出改札等駅事務室、みどりの窓口等販売諸室
1階部分 その他駅業務諸室

自由通路面積 約1,600㎡
駅舎面積 約2,400㎡

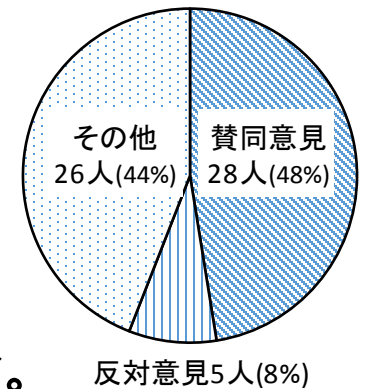
まちづくり(案)に対する議会・市民からの意見

◎議会からの意見

- ・市の負担を減らすことができたことを評価する。
- ・「公共交通の広がり」という点で自由通路と西口交通結節機能に期待する。
- ・アウガ、市庁舎、青森駅周辺整備推進事業の3事業は連携すべき。
- ・東西交流と交通の結節点として整備に取り組みなければならない。
- ・青森駅周辺整備推進事業は不要不急の無駄な公共事業である。など

◎あおり市民100人委員広聴会委員からの意見

- ・事業費縮減が図られ、前進出来たことは評価する。
- ・青森駅を整備するとの案が出てほっとしている。
- ・自由通路の整備と駅のバリアフリー化は早急に必要である。
- ・今整備を行わなければ、青森市の今後の発展はない。
- ・自由通路の整備はよいことであるが、更なる事業費の圧縮を望む。
- ・多額の費用をかける必要があるのか再度検討をすべき。
- ・市庁舎、アウガと一体で検討すべき。など



■ 意見提出者 : 59人

今後の方向性(市の判断)

- ① 鉄道事業者(JR東日本・青森県)の御協力のもと、事業費縮減が図られ、市の負担の縮減ができたこと。
- ② 議員・市民の皆様から多くの賛同と期待が示されたこと。

御意見等を踏まえた市の判断

**「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」の
事業着手へ**

今後のスケジュール(予定)

鉄道事業者(JR東日本・青森県)と基本協定を締結後

設計 H28~H29

用地補償・工事 H30~H32